

公益社団法人精密工学会 プラナリゼーションCMP とその応用技術専門委員会  
第130回研究会【新規デバイスプロセスに資するコンシューマブル技術最前線】開催のご案内

このたび、プラナリゼーションCMP 専門委員会では、下記のとおり【新規デバイスプロセスに資するコンシューマブル技術最前線】と題して第130回研究会を開催いたします。会員各位の多数の皆様のご参加をお待ちしています。また、非会員の方のご参加も有料にて受け付けております。なお、研究会終了後、情報交換会を行いますので、是非ご参加下さい。



日時：2013年12月6日（金）13:00～19:00

（研究会・・・13:00～17:15@7F「カトレア」、情報交換会・・・17:15～19:00@8F「スイセン」）

開催場所：プラザエフ（JR 四ッ谷駅麴町口から徒歩1分）  
東京都千代田区六番町15（TEL：03-3265-8111）

内容：

13:00～13:05 開会挨拶

檜山委員長

13:05～13:10 前回議事録確認

13:10～17:05 話題提供

**「テーマ：新規デバイスプロセスに資するコンシューマブル技術最前線」**

13:10～13:15 趣旨説明

宮嶋幹事・畝田幹事

**1) 13:15～13:55 TRENDS IN SMEICONDUCTORS AND THE IMPACT ON CMP CONSUMABLES**

Managing Partner Linx Consulting, Mike Corbett

<概要> デバイス並びに非デバイスの製造に資するCMPにおいて、それに用いられる消耗材（副資材）のマーケットトレンドを将来予測も含めてグローバルな視点から解説する。（幹事作成）

**2) 13:55～14:35 400mm シリコンウェハならびにSiC ウェハのメーキングプロセスにおけるポリシング技術**

濱田重工株式会社 シニアマネージャー 阿部耕三氏

<概要> 1996年から2001年に行われた400mmシリコンウェハの製造技術開発を目的とした研究プロジェクトであるスーパーシリコン研究所（SSI）におけるポリシング技術の開発内容について説明し、近年注目を集めているパワーデバイス用SiCウェハのポリシングに関する技術開発動向と、関連する装置やパッド・スラリーなどの副資材を使う立場から求める技術項目の例について講演する。

14:35～14:55 コーヒーブレイク

**3) 14:55～15:35 新しい概念によるダイラタンシー・パッドならびにスマートCMPシステムの開発とその難加工性基板への応用**

九州大学産学連携センター 特任教授 土肥俊郎氏

<概要> 難加工性材料基板の高効率最適加工プロセス構築を目指して、新しい高速圧加工装置と加工条件感応型の加工用材料を開発コンセプトとして、融合加工技術の研究開発を展開している。ここでは、ダイラタンシー特性を有する疑似固定遊離砥粒加工方式のパッドと高速圧加工装置（プロトタイプ）の開発状況について述べる。特に、考案・試作したダイラタンシー現象発現する樹脂パッドは、ガラスをはじめとするサファイア、SiC基板などの加工に適用すると、従来の加工能率の数倍～数10倍の高効率化と高品位・高精度化を達成し得ることを確認している。

**4) 15:35～16:15 ファイバーによるパッドコンディショニング技術の開発とデバイスプロセスへの応用**

昭和工業株式会社 社長室付 新井雄太郎氏

<概要> 半導体デバイスの高性能化に伴い、ウェーハ平坦化のためのCMP技術は益々その重要性が増している。そのような中、ドレッシング法については革新的技術が開発されてこなかった。今回、表面基準研磨を基としたファイバーでのパッドドレッシング技術が開発され、これをデバイスプロセスへ応用することでパッド立ち上げの短縮化、パッドのカットレートの低減が図られ、またドレッサの長寿命化が想定されることで更なる生産性の改善が可能となる。

<特別企画>

**5) 16:15～17:05 経営戦略としてのワーク・ライフバランス**

株式会社ワーク・ライフバランス コンサルタント 松久晃士氏

<紹介> 添付をご参照ください。

17:05～17:10 その他（事務連絡）

17:10～17:15 閉会の挨拶

17:15～19:00 情報交換会

## 経営戦略としてのワーク・ライフバランスで、日本を変える。

いま、日本社会を取り巻く社会問題には枚挙に暇がありません。急速に進む少子化、次第に拡大する年金や介護への不安、メンタルや健康の疾患…これらを引き起こす原因のひとつになっているのが、日本社会における長時間労働です。そして長時間労働という問題を連鎖的に解決するのが、仕事と私生活の相乗効果を生み出していく「ワーク・ライフバランス」なのです。

限られた時間の中で集中して仕事に取り組み、短時間でしっかりと成果をあげる生産性の高い働き方。多様な働き方にも高い柔軟性で対応する強い組織力。これらは今後、全てのビジネスパーソン、全ての組織にますます求められます。その背景には、出産や育児だけではなく介護による時間的制約があります。2007年に一斉退職した団塊世代は、次々に介護世代に入っていきます。これからの日本のビジネスパーソンの多くは仕事、家庭、育児に加えて介護も両立しなければならなくなるでしょう。もう残業という切り札は使えません。すでに私たちはその入口に立っています。労働生産性を高め、柔軟性に富む強い組織となり、高い企業イメージを作り出すワーク・ライフバランスは、まさに経営戦略なのです。



想像してみてください。残業は美德とされず時間当たりの生産性が評価される職場環境。そんな環境の中、自己研鑽に励み、交流を深め、健康管理にも気を配ることのできる社員。彼らを見て働くことに魅力を感じ、将来への希望に満ち溢れる意欲的な学生たち。残業がなくデイケアサービスを利用することができ、介護と仕事の両立をできる社会人。家庭介護が進み、逼迫した財政の中で宿泊型介護施設の増設をしなくても十分な介護環境を提供できる行政。——日本の可能性はまだまだ広がっています。これが私たち株式会社ワーク・ライフバランスの想像する未来です。

しかしクライアントからの要求にこたえ競合と戦っていくためには、残業は欠くことができない。そんな声も聞こえてきます。ぜひ弊社にご依頼ください。売上をあきらめて残業時間を減らすことがワーク・ライフバランスコンサルティングではありません。残業時間が減って、売上が上がり、お客様への訪問頻度は高くなり、急な依頼に対応しながら次の一手を考える組織になりましょう。企業ごとに、組織ごとに、ビジネスパーソンごとに、ワーク・ライフバランスの実現方法は異なります。まさに100社あれば100通りなのです。社員の評価方法、コミュニケーション方法、チームの運営方法、マネジメントや社員の意識を変えるお手伝いをさせてください。そして、一緒に日本社会を変えていきましょう！

株式会社ワーク・ライフバランス  
代表取締役社長

小室 淑恵

## わたしたちは、個人の多様性を企業力に変える 「ワーク・ライフバランス」の実現をお手伝いします

近年注目を集めているワーク・ライフバランス。単に「仕事」と「家庭」「生活」を両立させるとい意味にとどまらず、互いにより影響を及ぼし合って好循環をもたらす仕組みを作ることこそが、ワーク・ライフバランスの本質をとらえた取組みであると考えています。

これまで800社を超えるコンサルティング経験や、弊社コンサルタントひとりひとりがワーク・ライフバランスを実現する過程で生み出した、ワーク・ライフバランス実現のためのノウハウやツール、事例等をご提供し、お客様や従業員の方々の潜在的な能力・個性をより一層活かせる職場環境づくりのお手伝いをし、厳しい時代においても勝ち抜いていける強固な企業力の育成をサポートいたします。

社名	株式会社ワーク・ライフバランス	設立年月日	2006年7月
代表者	代表取締役社長 小室淑恵（こむろよしえ）		
主な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワーク・ライフバランスコンサルティング事業</li> <li>ワーク・ライフバランスに関する意識啓発事業</li> <li>休業者職場復帰支援事業</li> <li>ワーク・ライフバランスコンサルタント育成事業</li> <li>ワーク・ライフバランス組織診断事業</li> <li>個人の働き方見直し事業 …等</li> </ul>		
主な取引先 (順不同・敬称略)	内閣府 農林水産省 東京都 長野県飯田市 (株)アルビオン コクヨ(株) 西部ガス(株) 敷島製パン(株) 四国電力(株)スターバックスコーヒージャパン(株) 住友フィナンシャルグループ(株) ソニーマーケティング(株) 武田薬品工業(株) 東京海上日動火災保険(株) 新潟県総合生活協同組合 日本通運(株) 日本精工(株) パシフィックコンサルタンツ(株) など 800社以上		



### 代表取締役社長 小室淑恵（こむろよしえ）

1999年(株)資生堂入社、日経ウーマン主催「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2004・キャリアクリエイト部門」受賞。06年株式会社ワーク・ライフバランスを設立。  
 女性の育児休業者に限らず、男性の育児休業者、介護休業者、うつ病などでの休業者が職場にスムーズに復帰することができるようにサポートする仕組み「armo（アルモ）」を開発、第3回日本ブロードバンドビジネス大賞受賞。設立前より行ってきたワーク・ライフバランスに関するアドバイスやサポート内容を体系だて、新たな「ワーク・ライフバランスコンサルティングプログラム」として提供。現在では800社を超える組織へのアドバイスを行う。  
 日本全体の労働生産性向上による日本の企業力の回復や、近年増加傾向にある様々な事情で仕事を休まなくてはならない方も復帰後にきちんと職場でステップアップし多様な価値観を受け入れられる社会の醸成に日々尽力している。内閣府「仕事と生活の調和連携推進・評価部会」委員など複数の公務を兼任。金沢工業大学客員教授に。一児の母の顔も持つ。

### 主なコンサルタントのご紹介



大塚万紀子（おつつかまきこ）

楽天株式会社を経て2006年当社設立メンバーとして参画。日本の経営の企業が取り入れることのできるワーク・ライフバランスの導入に定評があるほか、講演や研修の講師も数多く担当。クライアントに合わせた目標設定と的確な解決策を導き出すこと、実行に移すためのサポートを得意とする。一児の母で自らも17時までの短時間勤務を実践中。



工藤真由美（くどうまゆみ）

当社設立メンバーとして参画。かつて自身の長時間労働を改善させた経験をもとに、残業の多い企業・個人がすぐに一歩を踏み出せるようなツールやセミナーの開発を行う。温かみのある場づくりと相手の真の課題を引き出すコンサルティング手法で多くの企業から信頼をいただいている。若手ビジネスパーソンに向けた研修やセミナーなど幅広く手掛けている。



風間正彦（かざまさひこ）

自身がかつて飲食業界での長時間労働の経験をもつことから、育児・介護などの事情のない場合でも生産性向上のためにワーク・ライフバランスが必要であることを実感。働き手の想いを理解した実行しやすい提案内容が、多くのクライアントから好評を得ている。行政や中小企業から指名も多く、職員向けの研修やコンサルティングを多く担当している。



藤川このみ（ふじかわこのみ）

コンサルティング会社を経て2008年当社に参画。中小企業からグローバル企業まで様々な規模のコンサルティングプロジェクトに携わった豊富な経験をもつ。分析結果に基づく課題の整理と施策提案に定評があり、現状と課題に呼応する施策をわかりやすく整理することで施策のスムーズな実行を促す。自らの育児経験から短時間で成果を出すことの意義を学ぶ。



横山真衣（よこやままい）

2007年当社に参画。特に中小企業がワーク・ライフバランスに取り組む際のハードルなどを考慮し、各企業の状況に合わせた適切な助言等に定評がある。国や自治体の奨励金、助成金などの情報提供の豊富さでも評価が高い。社内制度の周知を目的としたガイドブックの制作、女性活躍支援プログラム、メンタルヘルス対策など幅広い分野での情報提供や施策実績がある。



松久晃士（まつひさこうじ）

トリンプ・インターナショナル・ジャパンにて効率化・生産性向上に特化した働き方を実践。2010年当社に参画。自身の経験から得たノウハウや仕事の進め方をクライアントに惜しみなく提供、高い評価を得ている。モバイルサイト「働き方チェンジナビ」の開発担当としても経験を活かし、個人の働き方改革も推進している。ライブでは地域の清掃活動や植樹活動に参加している。



深堀雅史（ふかほりまさし）

スポーツサービス会社、大手教育会社を経て2010年当社に参画。キャリアカウンセラー資格の知識を活かした信頼関係の構築力と、クライアントを巻き込みながら成果を出すコンサルティング手法に定評がある。中小企業へのコンサルティングと働く人のメンタルケアを中心に活躍。介護施設でのボランティア活動を続けながら、これから日本が迎える大介護時代への危機感をもつ。



高安千穂（たかやすちほ）

前職では、多様な背景を持つ求職者のキャリアカウンセリング、企業とのマッチング業務を行い、相手が健全なキャリア感を持つためのカウンセリング、マッチング業務に注力した経験をもつ。休業者職場復帰支援プログラム armo[アルモ]や講演業務を担当。個人に寄り添う手法は、親しみやすく共感できると多くの女性から好評を得ており、ワーキングマザーからの信頼も厚い。二児の母。

**参加費：**

1. 企業会員：無料（年会費 100,000 円）
  2. 官学会員：無料（年会費無料・要登録）
  3. 非会員：30,000 円（今回の研究会のみの参加費）
- ※ご入会検討でお試し参加される場合、初回のみ一人様 15,000 円でご参加頂けます。  
※参加費にはプロシーディング代、懇親会費が含まれます。  
※人数確認のため会員方も必ず事前に申込書の提出をお願い致します。  
※準備の都合上、懇親会ご参加有無について必ず記入をお願いいたします。

お申込み・お問合せ先：「プラナリゼーション CMP 専門委員会」事務局（三上）行き  
TEL：03-5117-2225, FAX：03-5117-2223, E-mail：[mikami@global-net.co.jp](mailto:mikami@global-net.co.jp)

**2013 年 12 月 6 日（金）開催 第 130 回研究会 参加申込書**

会員 / 一般（いずれかにチェックしてください）

氏名			
勤務先・所属			
参加内容 (参加されるものに○を付けて下さい)	研究会		技術交流会
連絡先	住所		
	TEL	FAX	
	E-mail		